

明大の帝国主義的再編、帝国主義 教育支配秩序に対する路線と國 う部隊を里親に確定せよ！

全国大學ヨリ争の嵐の中で、明治大學もその波を今
かぶるうとしている。六七年學費値上げ斗争の敗北
以来、明大の革命派にふる斗争が始まるうとして
る。秋刀との対決にひるまず六七年一〇月八日、明
田中、佐伯、王昌、三里原、新宿とさう結果集
團に優先順位位置していた明大生、期は熱してい
る。政治斗争を主に抜く努力が名石していること。

我々は今日の大學生争は非妥協的、系統的斗争であ
ることを論理的に表明する。帝国主義者の教育支配
は、学生の体操喫茶と教職員促進分子の養成に力をい
れる。教育の帝國主義的再編は、戦前の教育統合五
チルとしなからも、更に一月、右傾化傾向表示して
いる。一、教育の中央集权化（文部省管轄の自治体教
育委員会への天下り）、中央教育審議会舊甲、自民党
文教制度調査会）二、教育機構の複雑化（六・三・
三四周の一体系から我々の望みへ、大學院大學の
設置、専門者育成教育、師範学校の復活）三、既存
排外主義教育思想の悪化、（民族教育、紀元節の復
活「外国人學校法案」の立法化）。既前型再編過程の
進行は明らかである。資本体制下の教育のフルジョ
ア私教育と公教育の体系化であった。「資本」と权
力の傾向に屈し、フルジョア私教育と公教育の裏
ひそむ君主體の対決を回顧して、「要請の自由」
「大學の自治」などと論ずることはできない。我々
は次代の才覚を構成する階級をスロレタリアートで
あると想定する。「ヨロレタリア权力」の確立を目指
す運動體体の中に教育があることを確認しなければ
ならない。「資本」と「フルジョア权力」の存立を
許す中での「自由、平等、博愛」などは概念上の言
葉の遊びにすぎない。革命派学生が切り抜いた、ス
ルジョア個別支配統序、基礎解体ヨキを徹底的にヨ
カ抜き、自己の恩怨とその具体化を不口しタリヤヘ
の結合へと深化せしめよ。「一十一は二である（足
巻）」を教えるのは、それが眞理であるから、あ
らうか？「一十一が二であることが人間の『義務』な
のであるからいいわゆる「義務」教育としての初等
教育においてはじまる教育体制が確立されたのは、

支配阶级として自らを確立しておられる上

（「ヨロレタリア权力」東大学生解放隊総連盟
開闢創刊号より引用）。明大三月を再び意識的上、
括し進むられなければならない段だ。田中吉雄、田中以
吾は、全日本大學學生の母体を開いた。田中吉雄、田中以
吾（「東京帝國主義大學解体」我々のうしなけ
ればならぬ）。「全國大學斗争権利」の大義を宣

吾せよ。

明大の「权力」「資本」に対する無能力を裏に運
営しなければならない。学生革命派の「权力」の本
質との眞向からの対決こそが現代の大學生のもの
である。「明大解体」の篤志を得た。ありてあ
るところ、大學側の「フルジョア权力」「資本
」との完全なる対立を露呈しなければならぬ。専任事
務の組織化「全大的國窮」と又都省り明大支配統
序基軸」との対決を深化させた専門部の犯罪情
報割へ学生に付する政治処分一乗、連署の完全民主
権限獲得、兼学部校舎問題、各學部の教育科目的
減少・縮じて、大學当局の「权力」「資本」擁護議
論のため金手を貸しての學校に対する批判、
解体斗争の促進。明大の帝國主義的再編を暴露し、
革命派学生の想懐化を急務じよ、全國大學斗争性
と若える。

明大斗争を目指すべき、論理的体系化と、その実
う部隊、我々の武力を甚大によ。

四、二五六四、二八沖縄斗争を全勝べりサード、
ストライキでオヌ。

明大工部學生解放戰隊

資本制生産が世界を支配し、フルジョアジーク、